

NPO法人障害者活動支援団体げんきむら令和元年度活動報告

1. 総論

就労移行支援事業を始めて6月で3年目に入り、当初から数えると6名の人が順調に就労を果たし、就労し続けました。これは大変喜ばしいことなのですが、初めの5か月間は就労継続支援B型の定員超過になる日が増え、移行支援の新たな利用者が増えず、事業の根幹を支える給付費は激減し、その後の移行支援の新たな利用者も順調に通える人が少なく、財政的に窮乏を極めた1年であり、貯えをすり減らすことで凌いできました。総合支援法に基づく、支援制度がとても万全なものではなく、細分化された事業を名目通りにやっていくのは本当に困難な道のりですが、げんきむらに通ってくる皆さんの、生活への影響は、少なくとも済んだのは大きな幸いです。

2. 生産活動の発展

アートスタジオに名刺制作の機材を移転したことで、長年取り組んできた名刺制作がほとんど利用者の手で行えるようになり、大変順調に手早く進められています。

目標工賃達成指導員の長年の努力が大きく、コロナウイルス流行の只中にあっても、行事や団体物のプリント製品の受注は今のところ減ることなく、また、下請け作業もなんとか回してもらえています。

カフェは、新しい主任の努力もあり、市役所ロビーおよび新規に加わった北交流センターロビーの売上が大きく伸び、来店客数が振るわないのをカバーしています。コロナウイルスの影響下で、時間は短縮しましたが店を開け続けています。

借りた田を埋め立てて畑にするのに、予想以上の時間がかかりましたが、初代村人のK.N.さんの遺族から多額の寄付金をいただき、整備費用にあてることができました。近隣在住の農業指導員さんの指導の下、プリントの仕事の合間に農作業を希望して頑張った利用者の力が結実して秋に植えた玉ねぎやブロッコリーが春には収穫でき、市のロビーでの販売品目が増えました。家族会の協力も大きく、今ではジャガイモの葉が青々と茂り収穫が楽しみです。日常的に畑に出て商品になる作物を収穫する喜びを、全部門の利用者が手の空いた時に味わっています。

全体を通じ、利用者工賃を減らさず支払えたことは大きな成果と言ってよいと考えます。

3. 就労移行支援事業の進展

新しい就労支援員の活躍が大きく、一昨年度に就労できた2名が順調に就労し続けているのに続き、昨年度も就労後6か月以上続いて仕事についている人が4名出ています。うまく続かなかった人も再チャレンジし、新たな職場を見つけています。

その成果の後を受ける就労定着支援事業も現在3名の人が利用し、就労し続けるためのバックアップ体制を得ています。

ただ総論に述べた通り、成果主義に基づく制度の矛盾点の下で、丁寧な支援ができる私たちのような小規模の就労移行支援事業は安定した給付費収入を得ることが難しく、茨の道を今後も歩むことになりそうです。

4. 利用者専門部活動の充実と地域とのかかわりの深化

げんきむら発足の1996年から24年間続いている元気村会議は、いくつにも分かれた作業現場の利用者同士の気持ちをまとめていく大切な場となりました。専門部活動は後にまとめたとおりの成果を上げています。各部門が独自に会合を持つ意識が今年度に向けて高まってきたのは素晴らしいことだと考えます。家族会とのコラボのような新しい形が現れたのも今後の発展が期待できます。

げんきむら村祭りは、11月より実行委員会を重ねて準備をしましたが、非常に残念なことにコロナウイルス流行により中止せざるを得ませんでした。今年準備されていた新たなつながりなどが来年の春分の日の祭りに生かされることを祈ります。

農業の開始にかかわり、地域の多くの方々のご理解があり、防災訓練にも、藤枝市災害ボランティアコーディネーターの皆さんのご協力がありました。

また、例年通りにたくさんの地域の団体様から、ウェア・防災旗・パンフレットや総会資料など刊行物のご注文をいただけていることも大変な喜びです。

5. 設備・機材の老朽化と補填について

1号館ができて13年、2号館ができて7年が経過し、機材設備の老朽化が目立ってきています。もとは財団助成や県市の補助で購入した印刷機や厨房機器がリースに代わり、リース経費がかさんできています。いずれ利用者工賃を圧迫する事態も考えられます。機材の減価償却に合わせた補填費用の積み立てがままならないなら、積極的に新たな補助金・助成金を得る手立てを日常的に準備していかなければなりません。

今期、コロナウイルス関連で県の在宅就労導入推進事業により利用者の在宅就労のための一連のシステムを1名分購入でき、今後藤枝テレワークオフィスを利用していく上でもよい準備となりました。

6. げんきむら創立の理念に照らし合わせて

制度矛盾の上に、コロナウイルス禍と、相次ぐ災難に見舞われている私達ですが、支えであったのは利用者の皆さんの、悩みながらも体を動かし、毎日のリズムを、生産活動に加わっていくことで作り上げていく姿です。仲間の姿そのものに仲間同士励まされ、また私達職員もその姿こそがずっと続いていかなければならない貴重なものだというところに改めて気づかされてきました。それぞれの目標に合わせた活動が、波風があっても揺らぐことなく続いていくこと、これが、24年間げんきむらで守られてきたものでした。ここでそれを確認することができました。

令和元年度 げんきむら利用者専門部活動報告

アートプロデュース部

○村松・大川・松下・佐野

ランチトートや季節商品など、アートのオリジナル製品をたくさん作ってカフェやロビーで売りました。ホームページのリニューアルができました。げんきむらだよりは前回の反省を活かしました。

体育部

○高橋・細田・作原・波平・多々良

4月バレー、9月ボウリング、11月ふれレク参加。来年もたくさんの人に参加してほしいです。

レクリエーション部

○前澤・桐生・田中・菊川・岩本

伊豆三津シーパラダイスへのバス旅行は行けましたが、他のことでは目標達成出来ず…。一部の人は活動しませんでした。

防災・環境整備部

○奥川・松下・甲賀・原・関根・細田

げんきむらの防災訓練、車いすの空気チェック、備蓄食料の点検、防災用水の管理、1号館の裏の草とり、2号館周辺の草とり、プランターと畑の管理（2号館）、薬箱のチェック、薬の3日分携帯チェック、伝言ダイヤル訓練を行いました。5月につばめがカフェの建物に巣を作ったので、糞の掃除が大変でした。

商品開発部

○川崎・新庄・岡田・青島・有馬

- ◎一閑張り、御朱印帳を、ふじのくにソーシャルグッズコンテストに出品しました。
- ◎一閑張り、御朱印帳を、清水銀行藤枝支店のロビーに展示させて頂きました。
- ◎カフェの現商品に対する意見をまとめました。
- ◎製品・商品の、消費者目線による評価・価格は、大変参考になりました。
- ◎新製品とこだわらなくても、皆で集まって話をするだけで、ヒントが生まれます。

研修・会議運営部

○細田・池田・胸組・朝比奈

会議運営は会場準備、レジメや会議資料の配布。会議終了後の机の片付け。会議室の清掃、会議司会者橋渡しなどが部員をはじめ利用者・職員の皆さんの協力のもと順調にできました。

研修は

- A 10月20日(日)家族会とコラボしてデンマーク牧場、袋井どんどこあさば、研修バス旅行にこの研修はなかなか好評だったように思います。
- B 11月21日(木)
心の健康フェア 2019年講演会
講師 増川ねてる氏のメンタルヘルスのリカバリーという研修会でした。

令和2年度 NPO法人げんきむら活動方針案

1、総論

コロナウイルス禍による緊急事態宣言という、前例のない年度明けとなりましたが、げんきむらの創立理念にのっとり、困難のなかでも、利用する人たちの生活のリズムが保たれるのを支えることを第一に考え、行動していきます。

2、生産活動の充実と施設整備

社会変動に伴い、作業内容の変革が余儀なくされることも想定されますが、その都度、職員・利用者ともに知恵を出し合っ、どの人にも、それぞれの状態に合わせた作業が用意できるように努力を惜しみません。合わせて、就労継続B型・就労移行支援、両事業の利用者に充実した工賃が払えるよう、努力を続けます。

げんきむらナカちゃんファームをはじめ、整備が足りない部門や、老朽化が見込まれる機材に重点を置き、補助金や助成金を生かした整備ができるよう、日頃より心がけていきます。

農園の作物が流通に乗り販売できるよう、各方面に働きかけをしていきます。

3、利用者の活動を支える職員体制の整備

事業の別や作業部門の別に合わせた職員の配置をさらに矛盾のないものにしていきます。職員研修に重きを置き、職員のキャリアをより強化していくとともに、それに合わせた報酬が払えるよう環境整備に努めます。

4、地域との交流の深化

カフェの運営や農園整備、防災への備えなどで、今まで以上に地域住民の皆さんにご理解やご協力をいただくことが多くなると見込まれますが、障害のある仲間が日々、できることできないことを一つ一つ課題に思いながら、心を込めて活動している姿を、ご理解いただくチャンスにしていきたいです。

5、制度矛盾を改め障害者の暮らしやすい世の中を作る社会活動

現場の声こそが、制度を良くし、社会を暮らしやすくする原動力であると考えます。きょうされんの全国運動および作業所連合会・わの活動に参加していきます。特に本年は、どの事業所も事業の行き詰まりや経営が立ち行かなくなる危機がないとは言えず、情報収集や、力を合わせた行動が物を言う正念場だと思われま。心して最良の道を探ってまいります。

令和2年度 げんきむら利用者専門部活動計画

アートプロデュース部 ○村松・大川・佐野・波平・青島・加藤・清水

カフェでお客様が製品を手にとりいただけますが、なかなか購買までは繋がらず、もう一押し展示方法に工夫したりなどしたいと思います。また昨年に引き続きランチトートの販売もしていきたいと思ひます。

今年の新たなる試みとしては各個人ごとラインスタンプにも力を入れていきたいと思ひます。くらシェア（ICT コンソーシアム）の集計作業や文書処理などの事務的の案件にも積極的にエントリーし作業の幅を広げていこうと思ひます。

体育部 ○高橋・田中

今年度は新型コロナウイルスの影響で体育行事は全滅の可能性が強く、各自、ジョギングやウォーキング、なわとびなど工夫して、身体を動かして下さい。

レクリエーション部 ○桐生・前澤・菊川・太田

今年度は新型コロナウイルス流行の状況により、レクリエーション部として出来る活動に制限が出てくる事が予想されます。そのため、家で出来る運動や手洗いの仕方を皆さんに向けて発信するなど、大勢で集まることなく出来る活動を考えていきたいと思ひます。

今のところ研修旅行は行く予定なので、これに関してもより皆さんが楽しめる行き先を企画するなどしてきたいです。

去年は部員の皆で何か決めることをあまりしませんでしたので、今年度は会議や話し合いの機会を多く持ち、部員全体での意思決定を図りたいと思ひます。

防災・環境整備部 ○奥川・甲賀・関根・原

【やる事】
農場の水路清掃、1号館うらの草とり、2号館周辺の草とり、2号館の畑の管理、1号館の整理（1号館が散らかっているため）、青北の防災訓練への参加、げんきむらの防災訓練、車いす空気チェック、備ちく食料の点検、防災用水の管理、薬の三日分携帯チェック、AEDの使い方訓練およびチェック

【目標】
災害がいつ来てもよい様に緊張感をもって作業したい。

商品開発部 ○川崎・新庄・岡田・有馬

目標 ◎定期的に話し合い、情報を共有する。
◎カフェの新しいデザートを考えてい。
◎羊毛材料で、立体商品を作成したい。
◎より良い製品を作るために、製品の販売実績を把握する。
手順：①新製品の作成 ②適正価格の決定と記入 ③カフェに販売委託・顧客の要望の記録
④売れた場合 1か月間の半券コピーをとり、販売動向の管理をする。

う ばあい しょうひん もんだいてん けんとう
売れない場合 商品の問題点の検討をする。
こんご せいひんざくせい ほうこうづ
⑤今後の製品作成の方向付け

けんしゅう かいぎうんえいぶ
研修・会議運営部

ほそだ いけだ あさひな
○細田・池田・朝比奈

- げんきむら会議の準備、あと片づけ、会場の清掃は部員3名が中心となり、げんきむら村人のご協力を得てこれからも進めていきます。
 - 新型コロナウィルスの感染予防策としましては
- ① 会議出席者は全員マスクを着用する。
 - ② 会議場へ入室する際には全員手をアルコール消毒する。
 - ③ 会議場のテーブルを会議開始前に全てアルコールを吹きつけた新しいふきんで殺菌消毒する。
 - ④ 会議場の全ての窓と出入口を全面開放し、極力換気に努める。
- じょうき こうもく こんご じっし
上記の4項目を今後も実施していきます。
- なお さら しんがた かんせんよぼうさく
尚、更に新型コロナウィルスの感染予防策がありましたら、それを積極的に取り入れていきます。